さんけん新聞

発　行
ＮＰＯ法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

「休眠預金活用事業」実施団体に内定
念願のビジターセンター実現へ

10年以上取引がない預金を民間公益団体の事業に活用する「中国5県休眠預金等活用事業 2021」の公募結果が3月 31 日に公開され、さんけんが実施団体に内定した。助成総額は1,050万円。正面口の売店改装、博物館展示、飲食提供実証事業などを実施する。

博物館展示・飲食提供実証事業など
助成総額は一〇五〇万円

採択された事業名は「大人も子供も学んで楽しい！三段峡ビジターセンター設置事業～体験と学びによる中山間地域の新しい価値づくり～」。テーマは「中山間地域を担う生業づくり」。

初年度は三段峡ホテル向かい側にある同ホテルの売店を改装し、ビジターセンターを開設する。人材育成事業の拠点にするとともに博物館展示やツアー案内、探勝路清掃の紹介など、これまで手薄だった一般観光客への情報発信機能を充実させる。

二年目以降は三段峡ブランドの商品販売や喫茶コーナー設置などの実証事業を進め、将来の事業拡大をめざす。事業期間は三年間で、ボランティア事業や講座開催、自然体験学習事業などを含め助成総額は一〇五〇万円。町へは地域おこし協力隊員の派遣を要請する。

実施団体を選定する審査員からは「丁寧に実績を積み上げている。今後の事業展開についても収入面、支出面を含め、十分に整理されており、実現可能性も高いと考えられる」など、これまでの活動を評価する意見が多く寄せられた。新たな挑戦となる物販やカフェ事業に対しては「位置づけが弱く、より具体的な計画が必要」などのアドバイスがあった。

申請は不採択になった昨年に続き二度目。本宮炎理事長は「申請書の文面だけでなく、今までの実績が評価されたと感じた。会員の皆さんのお陰。大きな目標だったビジターセンターの実現が楽しみ」と期待を膨らます。事業計画はさらに精査した上、五月をめどに資金提供契約を締結し、事業がスタートする。

事業内容と予算（概算・万円）

1）正面口の売店改装事業	600
2）博物館展示事業	200
3）飲食提供実証事業	70
4）三段峡ボランティア事業	40
5）講座開催事業	30
6）自然体験学習事業	30
7）商品販売事業	30
8）事業評価費	50

広大さんけん部の活動が報告された応援プロジェクト成果発表会

広島大地域の元気応援プロジェクト成果発表会
「三段峡ミュージアム」の活動報告

「広島大学地域の元気応援プロジェクト」の成果発表会が三月二十二日、同大ミライクリエ多目的スペースで開かれ、広大さんけん部の活動が報告された。

統合生命科学研究科中坪研究室が中心になり、三段峡交流館で博物館展示をする「三段峡ミュージアム構想」に取り組んだ。発表した宮田優大君は「資金集めや理想と現実とのギャップなど、社会活動の難しさを知る機会にもなった」と参加の意義を語った。同部の活動成果は今後、休眠預金等活用事業での博物館展示事業へ引き継がれる。

自然遊び縁
保護者の「縁結び」中心に企画
四回参加者に皆勤賞の記念品

保護者同士の関わりを中心に組み立てた四回目の自然遊び縁を三月二十七日、「縁結び会」として旧津浪小学校で開いた。町内の四家族九人と町外の一家族三人、中学生スタッフ二人が参加。おむすびを握ったり、ボール遊びをしたりして楽しんだ。

当初、雪遊びを計画していたがコロナ禍で中止になり、規制解除後に広報して開催した。四回参加の子供達に記念品が贈られた。町外参加の山根のぞみさんは「安芸太田の自然の中で遊ぶのが好き」と話していた。

エコツーリズム会議
モデルコース作成

エコツーリズムを推進するための会議が三月二日、町内の観光事業者や産業観光課、生涯学習課、さんけんからは本宮炎理事長と小林久哉副理事長が出席して開かれた。ワークショップ形式で四季に合わせたモデルコースを作成。佐々木浩吉企画課係長（当時）は「モニターツアーを実施し、エコツーリズム推進法の認定をめざしたい」と話した。

ヤマセミの巣穴視察
保全へ協力得る

安芸太田町小板の見浦牧場内にあるヤマセミの巣穴をさんけん会員の上野吉雄さんらが視察し、現場を管理する小板まきばの里キャンプ場の西田幸雄さんと保全について意見交換した。作業と産卵との時期をずらすなどの配慮を依頼。西田さんは「将来的には作業に影響がない場所で、巣穴になる崖を整備するなど保全に協力」と述べた。さんけんは三段峡で人工巣穴による保全活動を検討している。

一口メモ
▼望めぬ解除

寒の戻りで山野草の開花は緩やかに始まった。三月末の探勝路清掃は残雪もなく、一部には倒木や落石による損傷はあったものの、例年に比べ荒れは少なくて作業は順調だった。

四月半ばに行政による安全確認があるが、昨年来からの通行止め区間は解除されそうにはない。微妙な色合いの芽吹きや光る新緑が待っているのに残念だ。

三段峡の鳥たち ⑤

オシドリ
「仲睦まじい夫婦」？
抱卵、子育て シングルマザー任せ

淡水ガモの仲間で、県内では冬鳥として山間部の渓流やダム湖などにやって来て越冬する。数は少ないが、安芸太田町や北広島町などで繁殖している。峡内の上餅ノ木口―三ツ滝間には景勝「鴛鴦淵」がある。カモの仲間では小型で、大きさはカラスくらい。

仲睦まじい夫婦を「おしどり夫婦」というが、それは見た目。派手な衣装のオスと地味なメスとの違いがはっきり分かり、仲良さそうに寄り添っているのを見ていわれるようになったのだろう。他のカモ類と同様、越冬地でつがいになり、毎年お相手が変わる。

大径木の樹洞に産卵する。三段峡で巣は見つかっていないが、大径木に不足はない。巣箱を掛けると利用する。ヒナは高い巣穴から飛び降り、母鳥に連れられて移動する。二〇二〇年には柴木ダムで親子の姿が確認された。

日中はダムや河畔などで休息し、夕方になるとドングリを採餌する。二〇年は凶作でメスの栄養状態が悪かったのか、二一年には柴木ダムでヒナは見られなかった。抱卵、育雛の時期になると「婚姻関係」が解消され、シングルマザーになる。オスはオスだけで群れになって生活し、子育てはメスに任せてしまう。とても「おしどり夫婦」と呼べる間柄ではない。

（上野吉雄）